

令和 7 年度 入学試験問題

総合問題（日本語支援）

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答はすべて別紙解答用紙に記入しなさい。
3. 解答用紙は3 枚です。
4. 解答方法が論述方式の場合は、1 マス目から書き始め、1 文字空けた
り、改行したりせずに横書きで書き進めなさい。
5. 各解答用紙には、受験番号を記入する欄がそれぞれ 1 箇所あります。
すべて記入しなさい。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

I 以下の文章を読み、後の問いに答えよ。

突然ですが問題です。友達が次のようなことをいったとしましょう。

- (1) エットさ、こないだ彼氏と街中歩いてたらさ、向こうからすごい格好した女子が歩いてきたわけ。そしたらさ、彼氏が、ナンカ、タイプだったみたいで、じーっと見てるの。アノー、山ガール？森ガール？あんなのがいいのかなあって、思っちゃって。マア、たしかにルックスは悪くなかったんだけどさ。

あなたはこの話を、別の友達か家族に伝えたいと思いました。そのとき、どのように話しますか？

ところで、次のような文は自然でしょうか？不自然だとしたら何が原因で不自然になっているのでしょうか。こちらも考えてみてください。

- (2) a. ソノー、すみません。ちょっととおらせてください。
b. 386 かける 78 は？ アノー、30108。
c. すみませんが、マア、あそこでお待ちください。

さて、ここで(1)に戻って、この友達から聞いたことを別の人に伝えてみましょう。きっと、こんなふうになるのではないのでしょうか。

- (3) こないだね、A ちゃんが彼氏と歩いてたんだって。そしたらね、エーット、森ガールだっけ？ナンカ、そういう感じの子が歩いてきたらしいの。ナンカ、A ちゃんの彼氏さん、そういうのが好きらしくて、じっと見てたらしいよ。

この章で考えたいのは、以上の例文でカタカナで書いた「エーット、アノー」というような表現についてです。他に話す場合、これらの表現を忠実に再現しなくても（というか、できない）何も問題は起きません。これらの表現はフィラーと呼ばれています。フィラーというのは英語の“fill”（埋める）ということばに“-er”をつけて

“filler” としてのもので、「埋める(ための)もの」というような意味でしょうか。

何を埋めるかという、たとえば、ずばり 1 を埋めるのです。会話をしていると、次に何を話したらいいか分からない、ど忘れしてしまった、などということが多々あります。そんなときに、「エーット」とか「アノー」とかいって、いいよどむことがあると思いますが、フィラーというのは、そのようにいいよどむときに現れる表現だということをいっています。

たしかに、これらのフィラーは特別なことをしていないように見えます。(1)の内容を伝えようとして話された(3)では、エーットやアノーは 2。むしろ、誰かの話を「一言一句覚えている」というときに、その人が発したフィラーの位置や種類まで正確に覚えている、ということはないでしょう。つまり、これらのフィラーは、「伝える内容」としてはなんの意味ももっていない、ということになります。

なんの意味ももっていないのであれば、どこでどのようなフィラーを使ってもいいのかというと、そうでもないということが、(2)を見ると分かります。見知らぬ人にどいてほしいなと思いながら、一声かけるというときには必ず「アノーすみません」と、アノーが用いられるでしょう。少なくとも、ソノーが使われることはないのではないでしょうか。一方、難しい計算を暗算でしなければならず、考え込むというような状況では、「アノー」といって考え込むというのはとても不自然で、もしこのような時にフィラーを使うということであれば、「エーット」といって考える方が自然です。マァというのも、「そこでお待ちください」というようなときには使えそうにもありません。

このような事実は、フィラーは「伝える内容」自体はもっていないけれど、会話の中では、何か他のことをやっているということを示唆しているようです。この章では、フィラーが、会話の中で何をするものなのか、ということについて考えてみたいと思います。

まずは、フィラーが会話の中でどのようなことをやっているか、について考えてみましょう。フィラーには大きく分けて3つの特徴があります。

1つ目は、多くのフィラーが誰か話し相手がいるときに出てくる、ということです。3 をいっているときには、「エーット、あれはどこへやったかなあ」と

いうことはあっても、「なんていうか、アノー……こういうことはよくないんじゃないかな」などということはないそうです。このことから、フィラーは話し相手に対して何かをしている、と考えられます。

2つ目は、フィラーはどのフィラーを使うかで、ニュアンスが変わることがあることです。たとえば、食事のあとに感想を聞かれたとして、

- (4) a. エーット、カニはおいしかったかな。
b. マア、カニはおいしかったかな。
c. アノー、ソノ、カニはおいしかったかな。

と答えると、すべてニュアンスが異なっているように感じませんか？(4)aでは聞かれてはじめて感想について考えを巡らせた、bではいろいろ 4 的な感想を考えていたんだろうな、それで一番まじだったカニのことを代表させていって見たんだろうな、そしてcでは、感想をどのようにいったらいいか分からなくなって逡巡したあげくに、結局カニのことを褒めてみた、というようなニュアンスが伝わらないでしょうか。

3つ目は、多くの場合それが 5 に発せられるというものです。みなさんもお自分の発話を振り返ってみるとすぐに気づくと思いますが、「どうしていまそこでアノーと言ったの？」と聞かれても、理由をいうことはできないと思います。

中略

このような特徴を考えあわせると、フィラーは「自分の頭の中でおこっている考えや計算やその他の操作を、相手に対して、5 に知らせてしまう」というようなものである、と考えることができそうです。道路に立っている、駐車禁止や止まれの標識は、何かを前もってお知らせするようなことをしています。フィラーも会話の中で同じようなお知らせをしていると考えて、言語学や日本語学の世界ではフィラーを「心的操作標識」(の一種)とすることがあります。

そこで、繰り返し強調しておかなければなりませんが、フィラーは「私はいま計

算中。そのことを相手に知らせなくちゃ！」という気持ちで、相手に対して発するというものではない、ということです。

フィラーは、どちらかというと、「洗濯機が出すノイズ」に近いものです。洗濯機は洗濯物を入れてボタンを押すと、水が出る音がシャーっと聞こえ、そのあと、ドラムがぐるぐる回って水をかき混ぜている音が聞こえ、しばらくすると下から水が抜けていく音が聞こえ、さらにそのあとでドラムが高速回転して脱水している音が聞こえます。これらの、洗濯機が出すノイズは、洗濯機が「いまワタクシ(洗濯機さん)はあなた様に、ドラムが高速回転している音をお聞かせして、脱水していることを伝えていますよ」という目的で出しているものでは決してありません。けれども、私たちは 6。

フィラーがしていることも基本的には同じだと考えることができます。私たちは会話の最中にさまざまなことを考えています。「次は何を話そうかな、あれはなんていうんだっけ？ 全部話すと長くなるよなあ。ここは別のことばで言った方が相手は傷つかないよな……」などなどです。そのような考え(処理)をする時に、あたかも洗濯機のノイズのように、5 に現れるもの、けれど、それを聞いた相手には、あなたが頭の中でどのような処理を行っているかのヒントを与えるもの、それがフィラーだということになります。

(出典：岡崎友子他編『ココが面白い！日本語学』[ココ出版]，[2017年]，所収の堤良一「第12章 『アノー、ソノー、エーットね……』何がしたいの？」151-155頁に基づき，一部改変)

問 1 本文の中の例文(1)，(2)，(3)の中からフィラーには該当しないカタカナ表記のことばを二つ書け。

問 2 1 に入る漢字 2 文字を下記の選択肢の中から一つ選び、記号で答えよ。

- a 想像 b 空間 c 情報 d 沈黙

問 3 に入る最も適切な文を下記の選択肢の中から一つ選び、記号で答えよ。

- a もとの位置に現れなければなりません。
- b もとの位置に現れなくてもよいです。
- c もとの位置に現れることが多いです。
- d もとの位置に現れることが望ましいです。

問 4 に入るひらがな 5 文字の言葉を書け。

問 5 に入る漢字 2 文字を書け。

問 6 に入る言葉を下記の選択肢の中から一つ選び、記号で答えよ。

- A 無関心 b 無意識 c 意識的 d 計画的

問 7 に入る最も適切な文を下記の選択肢の中から一つ選び、記号で答えよ。

- a 洗濯機が脱水という処理を行っていることを、そのノイズを聞いただけでは察知することができません。
- b 洗濯機が出すノイズから、脱水処理の状況を察知しなければなりません。
- c 洗濯機が脱水という処理を行っていることを、そのノイズを聞くことで察知することができます。
- d 洗濯機が出すノイズから、脱水処理の状況を知ることはできません。

Ⅱ 次は, “Life with two languages” と題された英文である。これを読み, 後の問いに答えよ。文章末の注も参考にすること。

この個所は著作権の関係で表示できません。

この個所は著作権の関係で表示できません。

注

settlement 入植

nation-state 国民国家(国民的同一性を基礎とする近代国家)

Wales ウェールズ(イギリス南西部の半島状の地域)

Welsh ウェールズ語

lose ground to ～に敗れる

persecute 迫害する

open-minded 公平な, 偏狭ではない

legal proceedings 法的手続き

(R.L. Trask, *Language: The Basics*, Routledge, 1999 年に基づき, 一部改変)

問 1 下線部(1)を日本語に訳せ。

問 2 下線部(2)(6)(7)のそれぞれの語に最も近い意味の語を, a ~ d から選べ。

(2) indigenous

a modern

b native

c precious

d unique

(6) immigrants

a communities

b nations

c newcomers

d services

(7) predominantly

a domestically

b mostly

c previously

d rarely

問 3 カッコ(3)には以下の 9 つの語が入る。これらを正しく並べて書け。

are danger identity in losing of serious their they

問 4 下線部(4) these steps とはどのようなことを指しているか, 日本語で簡潔に述べよ。

問 5 カッコ(5)(8)に入るべき最も適切な語を，それぞれ以下から選べ。

(5) a Closely b Generally c Simply d Strangely

(8) a appropriately b defensively c differently d negatively

問 6 文脈から考えて，カッコ(9)に入るべき最も適切な固有名詞(地名)を 1 語で書け。

問 7 下線部(10) it が指している内容を，日本語で簡潔に述べよ。

問 8 次の日本語を英語に訳せ。

「機械翻訳などのテクノロジーの発展により，英語に頼らなくても，異なる言語の話し手がコミュニケーションができるようになっている。」

Ⅲ 以下の文章を読み、後の問いに答えよ。

その盲目の語学者がわたしに巣くってしまったのは、丘の松林のなかの、神殿のように床の高い古風な教室においてであった。

二学期がはじまったばかりで日射しは暑かったけれど、松風がざわざわ鳴っていた。

白江教授の文法学概論の時間であった。教授は三十歳なかばであったろうか、目も声も物腰も女形のように、顔はノートに伏せたままで講義をつづけていた。髪がなめらかな白いひたいに垂れかかり、高い鼻^{りょう}梁がいつそう秀でて見える。それでいて、黒板に書く白墨の文字は、大きく力が漲^{みなぎ}って粘着している。

黒板には「本居春庭」「詞の八衢」「詞の通路^{かよいじ}」という文字が、三行に書かれていた。

「……春庭^{はるにわ}ははじめ健蔵と称し、十八歳のとき健亭と改めた。春庭はその字である。宝暦十三年二月三日に母の勝子の実家である津^{のりなが}の家に生まれた。父の宣長は時に三十四歳であって、はじめての子どもであった。日記に〈三日、晴陰、風烈シク或^{あるい}ハ雪散り、未刻後晴ルルモ猶風アリ。○未刻半、津ヨリ使来り、今巳刻前勝子安産、男子出生。母子^{つつが}恙ナキノ由ヲ告グ〉とある。幼時から父の仕事を助けたり版下を書いたりした。字もじょうずであったが、細字は目で見えぬくらいであったという……」

教授はなんの説明も加えなかったが、宣長の日記を原文読み下しのままに引用した意味は、わたしにもすぐわかった。それには宣長がはじめての子を得た安堵^どの思いが簡潔にあらわれているからだろうが、それよりも春庭出生の日の天候まで引用した^①のは、その短い章句が、春庭の人生をまったく予測しないかたちで象徴しているとみとめたことのように思われた。

「……こうしたことが目のためによくなかったのであろう。二十九歳(寛政三年)のころから眼病を患い、悪くなるいっぽうであった。尾張馬島^{まじま}の眼科医をたずねて治療を受けたが、はかばかしくなかった。当時における宣長の心痛は『本居宣長翁書簡集』に見えている。父宣長の心配はひとかたならず、自分でつれて京都、大阪^②の名医をおとずれたが、経過は思わしくなく、三十二歳(寛政六年)のときにはまっ

たく失明した。父宣長はその将来を種々心配したすえ、ついに針医者にすることにきめ、京都にのぼらせた。修業を積んで松阪に帰ったのは三十五歳で、その年に針医を開業し、従妹にあたるい き壱岐という女と結婚したのである。三十九歳のとき、父の宣長が没した。本居家では、宣長の弟子いながけおおひら稲懸大平を養子として本居家をつがせた。大平は出でて紀州家に仕え、春庭は松阪の家に住んで針医のかたわら、語学と歌とを教えた。心をまぎらわすものがなかったのであろう、かれの語学に対する熱意は非常なもので、ついに『詞の八衢』『詞の通路』の二名著が完成された。博覧強記であったかれは、妻の壱岐、妹のみ の美濃の助けを借りて、この精密な研究を成しとげたのである。かれは歌も詠み、それは父宣長にまさるといわれている。歌集を『のちの後鈴屋集』という。かれは後鈴屋翁と号した。文政十一年十一月七日、六十六歳で没した。戒名は明章院通言道永居士。墓は松阪の樹敬寺にある。大正十三年、正五位が追贈された」

教授はなんの抑揚もつけず、ほとんど感情をあらわさずに(③)を述べ終わった。わたしも機械的にノートを続けた。

「……『詞の八衢』は文化三年に成った。初刊は文化五年である。上下二巻より成り、尾張のうえまつありのぶ はしぶみ植松有信の序と本居大平のぼつ跋とが添っている。全体の結構は、まず総論ともいふべき部分があり、そのあとにア行からワ行まで各行について各種の活用④を述べているが、総論のはじめに書いている。〈詞のはたらきはいかにともいひしらず、いともいともくすしくたへなるものにして……〉。ここにわれわれはこの不幸な語学者が、詞の語法、活用を研究するにつれて、詞の精妙におどろきたのしんだことを見る。昔の人は自然に詞の使いかたをまちがわなかったが、後世になるにつれて次第に誤りが多くなったと、つぎに述べている。これは当時の復古的精神のあらわれである。この書を八衢と名づけたについては、おなじことばでもその働きざまによってどちらへもいくものであるから道にたとえたのだと述べている。春庭の功績はどの点に存するかといえば、四段、一段、中二段、下二段という四種の活用を樹立したのにある。いまでもこの名称が用いられていることはいうまでもない……」

教授はそのあと、春庭がいった中二段は上二段のことであり、この名称をはじめて用いたのは桑名の学者くろさわおきなまる黒沢翁満の『ことだま言霊のしるべ』であること、春庭はまだ今日⑤

の下一段にはふれておらず，これは江戸の林圀雄が名づけたものであることを述べた。ついで「春庭はこの四種の活用のほかに，いささか働きざまの異なるものがあるとしてこれを（⑥）と名づけた。この名も今日われわれの用いるところである」と講じた。

わたしはノートをとりながら，にわかに興味が動くのをおぼえた。この学校は国文学を教える特殊な専門学校で，わたしは国文学が好きで入学したのだったが，そのなかでも文法が数学のような論理美を持っていることでわたしの興味をとらえた。その文法で用いながれた動詞の活用の法則と名称とが，すでに百数十年もむかしに盲目の語学者によってほぼ決定されていたということはおどろきであった。

（出典：足立巻一『やちまた(上)』中公文庫，2015年，7-10頁に基づき，一部改変）

問 1 下線部①「春庭出生の日の天候まで引用したのは，その短い章句が，春庭の人生をまったく予測しないかたちで象徴している」とあるが，どのような天候がどのような人生を象徴しているのか，本文に即して六十字以内で説明せよ。

問 2 下線部②「書簡」とほぼ同じ意味を表す語を，漢字二字で答えよ。

問 3 空欄③に入る言葉を考え，七字以内で答えよ。

問 4 下線部④「活用」とあるが，動詞の「活用」とはどのような現象のことをいうのか，簡潔に説明せよ。

問 5 下線部⑤「春庭はまだ今日の下一段にはふれておらず」とあるが，その理由としてはどのようなことが考えられるか，古典文法を踏まえて述べよ。

問 6 空欄⑥に入る語を，漢字二字で答えよ。

問 7 筆者が本居春庭に強い関心を持った理由を，本文に即して八十字以内で説明せよ。